

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	(有) 歩未
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	松山市北久米町933-1
自己評価作成日	平成24年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 6 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基本に皆さんの笑顔がみられる楽しい生活空間であることを目標に努力しています。行事を地域の皆様への発信源として、行っています。計画してからは準備の段階から利用者の皆さんの出来る事をお願いし、行事参加においてはそれぞれが達成感を持てる事に繋がるようにとの思いで関わっています。また地域の皆さんにも、日々のホームの暮らしの中で「こんなことをしているんだな」とご理解していただきたく、運営推進会議として行事参加いただきました。畑作業、散歩など、各利用者さんの必要とする支援を理解し、今後も継続したいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

季節ごとの行事や、利用者の希望に応じた外出支援、職員と利用者がペアになっての仮装パーティ、芸術療法や園芸活動など、多種多様な催し物を工夫して、利用者の日常生活の活性化に努めている。料理は専門の職員が配置されており、職員は利用者が日々楽しみながら生活できることに重点を置いて、サービスの質の向上に努めている。夏祭りは事業所の催し物であるが、地域の行事としての位置付けもあり、多くの近隣住民の参加がある。事業者は、地域とのつながりを大切に取組みを継続し、利用者へのサービス提供にも活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

<b>事業所名</b>	グループホーム あゆみ
<b>(ユニット名)</b>	1階
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	高須賀 幸子
<b>評価完了日</b>	平成24年 5月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 玄関やホーム内に掲示されているが、何のために必要なのか、スタッフの理解や意識付けなど、今後も継続し、ともに考え、実践していきたい。</p> <p>(外部評価) 開設してから7年が経過し、利用者と職員で見直しを検討している。「理念がなぜ必要なのか」という原点に立ち戻り、理念を言葉だけでなく、日常のケアの基盤として位置づける取組みをしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ご利用者との散歩中、あいさつを交わしたり、声をかけていただいたり、行事参加もしていただけている。いきいきサロンの方とはなじみの関係ができつつある。</p> <p>(外部評価) 住宅地に隣接していないが、事業所が積極的に関わりを持って自治会や学校等との交流を深めている。事業所の行事が地域の行事として定着し始めており、近隣住民とも普段着のつきあいができている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 愛媛医療生協久米北支部長の依頼により、「からちゃんのおあわせ」という紙芝居の絵を職員が担当し出来上がった。現在、その紙芝居がこの地域の認知症サポーター養成講座などで使用されている。また中学校の体験学習・城南高校の実習なども受け入れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 消防訓練や、内部行事に参加していただき、利用者の 様子や職員とのかかわり方などみていただきご意見な どいただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議を机上の話し合いだけで終わらせないよ う進め方に工夫を凝らしている。事業所の行事やその 準備に合わせて開催し、委員に利用者へのサービス提 供の状況を見てもらい率直な意見をもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 事業所独自の様式の作成についての相談や、利用者さ んの状況に応じた相談など、その都度、電話や訪問し て行っている。	
			(外部評価) 報告会や研修会などを通して市や地域包括支援セン ター等との繋がりを深めている。職員は、利用者と市 社会福祉協議会が主催するふれあい・いきいきサロン にも参加し、保健所の職員とも協力関係を築いてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や職員会議で取り上げ、スタッフ間で話し合っ ている。拘束の状況になったときには、ご家族と話し 合い、同意いただいている。医師の指示の場合も同意 をいただき対応している。玄関は日中は施錠しておら ず、自由に出入りできるようにしている。	
			(外部評価) ベッドのサイドレールも、身体拘束にならないよう配 慮しケアを行っている。転落の危険性がある場合は、 マットを敷いたり、布団に切り替えたりしながら、身 体拘束をしない事を最優先させている。職員は正しく 理解し、利用者の人権を守るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会で取り上げ、スタッフ間で確認しているが、言葉かけ・態度など無意識に虐待につながることもあるので、各自自覚し行動する必要がある。また、傷やあざなども見つけたときには原因究明に努め、ご家族にも報告している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強はしているが、内容が難しいと思う。今のところ該当者がおらず、利用している方はいないが、管理者は裁判所で資料をいただき手続きの方など理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結の際には、時間をかけて、説明している。普段内容についての質問があれば、適宜説明している。改定時には個別に説明し、同意の署名・押印をいただいている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年2回の満足度アンケート・家族会を実施しており、アンケート結果に基づき、意見交換をしたり、要望を伺ったりしている。その結果は運営推進会議でも、報告し意見などをいただいている。  (外部評価) 利用者の生活を豊かにするためには家族の協力が不可欠であるとの考えから、家族との関わりに重点を置き意見を反映させている。家族の面会も多く、機会をみて家族の意見を傾聴している。アンケートを行ったり、日常的な関わりの中で家族との繋がりを深め、意見を言いやすい環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 年2回、改善シートを配布し、職員の意見をくみ上げている。代表者が、内容により、できることから改善し、できないことはきちんと説明している。</p> <p>(外部評価) 職員は自分の言葉でしっかりとした考えを述べ、代表者や管理者はその意見を取り入れた運営を心がけている。職員一人ひとりが自分で考えることを大切に、ケアの質の向上に繋げている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 各自「今年目標」をたて、目標達成のために努力している。また、業務個人評価も年2回行い自分自身の評価もし、代表者はその評価をもとに、給与の改善に向け、努力している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 年間計画をたてて内部研修を実施している。外部研修は案内があれば、対象者に回覧したり、受講を勧めたりしている。費用負担もある。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他のグループホームと合同勉強会を実施したり、運営推進会議を合同で行うなどしている。行事への参加も互いにしている。包括支援センターでのグループホーム交流会にも参加し交流の機会を持っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人の不安を解消できるよう、より添い傾聴する姿勢で安心できるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込みの時に見学・相談を受けており、利用開始時にも再度不安・要望など伺い、ご家族が安心できるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) できること、できないこと、わかること、わからないことなど、ご家族からの情報以外にも職員が目視観察し必要な支援につなげるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と1対1で過ごす時間を持ったりして、孤立しないように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはご家族だけで過ごせるように配慮している。また普段の様子などご家族に報告・相談などし、互いにご本人の様子を共有できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時間など決めておらず、いつでも自由に面会ができるようにしている。いきいきサロンで顔なじみになった方々も行事参加していただいている。  (外部評価) 事業所は、利用者の友人や知人との関係を大切に、途切れないよう配慮している。新しい関係づくりの支援として、ふれあい・いきいきサロンを活用するなど事業所の近辺に馴染みの人や場を作る取組みも行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 状況により席替えをしたり、他の利用者との交流が難しい人は職員がそばにつき添ったりして、孤立することがないようにしている。常に向き合う姿勢でコミュニケーションをとるようにつとめている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家族の中には「ときどき来てもいいですか。皆さんと話をしに」と言われる方もおられ、来ていただいている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の発言に耳を傾け、情報収集し把握に努めている。困難な方はご本人のペースに合わせて対応している。担当者会議でも情報を出し合っている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の意向の把握に力を入れフェイスシートに思いや生活歴を細かく記録し、家族のように何でも話せる関係性を築くことに努めている。利用者の思いや意向を十分理解し、日々のケアにあたっている。	利用者一人ひとりの意向を把握するために、職員全員が口頭ではなく、文章により確認しあって情報をまとめることで、新たな希望の発見などに繋げ、いっそうのケアの質の向上に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族からの情報に頼ることがほとんどですが、情報は少ないため、日々の会話のなかから把握することも多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送りにより、それぞれの利用者の過ごし方や身体状況の把握に努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の要望など反映させながら、担当者会議で話し合い意見交換を行い計画を立てている。計画作成前には毎月のモニタリングを参考に計画の見直しを行っている。	
			(外部評価) モニタリングを分かりやすくするために、データ化する取り組みを行っている。日々の取り組みが確認できるような表を作成し、職員だけでなく利用者のモチベーションアップにも繋がっている。家族等にも事業所の日々のケアを紹介できる取り組みとなっている。	データ化されているため介護目標の達成度が把握しやすいので、様々な視点から分析を行って、ケアの質を高める取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録は生活記録に記入している。身体状況に合わせ必要な記録様式を使用したりしている。毎日の申し送りで、情報共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 連携医以外の通院等、ご家族ができないときには、ホームで対応している。またご家族との外出時には待ち合わせ場所まで送ることもある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) いきいきサロンを利用させて頂き、楽しまれ、なじみの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホームとの連携医・ご本人・ご家族の希望を踏まえ たうえで、症状に応じて医療機関を選択し受診で きるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所の協力医が在宅医療に力を入れており、そ の信頼性から利用者全員が納得してかかりつけ医 としている。看護師の代表者がかかりつけ医との 窓口になり緊密な連携がとられている。利用者や 家族の希望も汲み取って、専門医の受診も支援 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームの看護師には適宜利用者の変化があれば 伝えて、支持を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に 備えて病院関係者との関係づくりを行っ ている。	(自己評価) 入院時には、情報提供書作成し情報を伝 えている。病院訪問時には、状況説明を受 けたり、退院が決まれば、医師、ご家族 との会議を持ったりしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し 合いを行い、事業所でできることを十分 に説明しながら方針を共有し、地域の関 係者と共にチームで支援に取り組んでい る	(自己評価) 重度化したときには、主治医から利用者 家族に状況説明や今後の対応等について の話し合いの機会を持つようにしてい る。その後の状況に応じて都度話し合 いながら事業所の対応を説明し、チ ームケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) かかりつけ医の協力のもと、ターミナル ケアに取り組んでいる。段階ごとに話 し合う機会を持ち、職員は利用者や家 族の思いを十分理解し支援を行って いる。職員は経験を重ねながら、真摯 にターミナルケアと向かい合う姿勢を 大切にしている。	重度化や終末期の支援を行うにあたり、 リフトの導入や活用方法の研修を行 うなど、職員のスキルアップにつな がる取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 南消防署の避難訓練時には全員対象にAEDの訓練も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 南消防署、セコムとの訓練を年2回行っている。また緊急連絡網訓練も定期的に行っている。地域の方々とは合同訓練参加や協力もお願いしている。  (外部評価) 災害対策は、消防署の協力を得て他の施設との合同訓練やセキュリティ会社の訓練、地域の防災訓練など様々な形で行なっている。利用者の居室にヘルメットを備え付けたり、転倒予防の設備をするなど、安全に配慮している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの今までの生活歴や環境など知り、其々に合った言葉使い等気をつけて対応している。  (外部評価) 職員は、利用者それぞれの人格を尊重しプライバシーに配慮した声かけを行い、自然で人間味あふれた関係を築いて利用者の安心感を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の表情などで、訴えたいことはないかなど観察し声掛けを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のペースを優先し、自由に過ごせる時間を持つようにしている。またしたいことがないか確認しながら希望に添えるように努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節・気温などに応じ、自分でできない方は職員が支援している。自分でできる方については好みなど大切にし、見守っている。外出時には女性にはお化粧を勧めたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事時間の前になると、自然にテーブルを拭いたり、ティッシュ・ゴミ入れを利用者が準備している。また自分のかたづけができる方は自分で下膳するなど、役割分担ができています。	
			(外部評価) 調理専任の担当者がおり、栄養に配慮した美味しい食事が提供されている。食事を栄養面だけでなく楽しみにするという支援を行っており、利用者も食事の時間を楽しみにしている。食事前の嚥下体操も和やかにやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ホーム独自のチェック表で記録しており、1日に必要な水分量の把握や食事量を記録し、確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、洗面所に誘導し行っている。磨き残しのチェックを行い、職員が磨き直すこともある。また歯磨きのできない方については口腔内のふき取りをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録により、パターンの把握をし、トイレ誘導している。居室にはポータブルトイレは置かないこととしており、夜間もトイレでの排泄が可能なたはトイレに行っていたらいい。	
			(外部評価) 「排泄はトイレで」という介護目標に沿ったケアを実践している。事業所内に、車いす用のトイレを4か所も設えており、排泄支援に力を入れていることが分かる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄の記録をつけており、便秘の状況に応じては薬の使用もある。運動できる方は、散歩したり体操したりして効果がある方もいる。食事でも繊維の多い食材を使った食事を提供している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一応入浴日は決めているが、それぞれの状態に合わせて、適宜入浴できる体制は整えている。機械浴と個人浴の対応をしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望に応じた入浴や、特浴を取り入れた個々の状態に応じた入浴を支援している。希望に合わせて同性介護にも応じるなど、細やかな心配りがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 毎日、昼食後、昼寝の時間をとるかた、散歩に出かけ活動量を増やし、夜間の安眠につなげている方もおり、それぞれに合わせて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬についての説明書はファイルに綴じており、職員はそれにより確認し症状の変化等あれば、看護師に確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の状態にあわせて、できること（洗濯物干し・洗濯物たたみ・新聞折・ゴミ箱折など）を毎日の日課として行っている。ひとりでできるゲームやパズルなど個々に合わせて勧めたり、合同での体操などもしている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩に出かける方は、毎日職員が付き添いでかけている。畑作業に庭にでる方は、職員と一緒に作業を行ったり、遠目で見守ったりしている。定期的に外出行事を計画し、普段いけない所や、希望されるところへ出かける機会を作っている。家族参加も声掛けするが一部の方に限られる。	
			(外部評価) 日常的な外出だけでなく、利用者ごとの希望に応じた個別外出支援を行い、外出が利用者の生活の質を向上させている。職員は、利用者にとっての外出の意義をよく理解している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で持たれている方は、パン屋さんに来たときなど、支払ができるように見守り確認している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の引き継ぎをしたり、かけたいとの希望があれば、応じている。手紙は字が読めない方には了承いただき、職員が読んで差し上げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関には芸術療法で制作した皆さんの作品を展示し、ご家族や来所者に見ていただけるようにしている。テレビの音や室温・明るさも適宜調整している。窓際やテーブルなどに季節の花鉢を飾ったり、利用者さんのいけばなを飾ることもある。</p> <p>(外部評価) 共用空間は、掃除が行き届き維持管理がしっかりしており、清潔感がある。適所に観葉植物や芸術療法の作品の展示があり、利用者を活気づかせるインテリアとなっている。居間や食堂だけでなく、廊下やホールもゆったりとしたスペースがあり、利用者の心和む居場所になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 皆さんリビングで過ごされることが多いが、洗面所前にもソファがあり、ひとりでそこで過ごされる方もいる。リビングでも場面に応じ席を変えたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 机・イス・位牌など持ち込まれている方がおられたり、今までの生活様式にあわせて、一部に畳を敷かせていただいたかたなどご本人の希望も取り入れて住みやすい居室になるように努めている。</p> <p>(外部評価) ベッドとタンスは備付けで、利用者は自分の生活スタイルに合わせた家具や小物を持ち込んでいる。ベッドやタンスなどのレイアウトは利用者ごとに異なっており、個性を尊重した居室づくりを支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下・トイレ・浴室などへの手すりの設置や居室入口へ写真入りの名札の設置により、安全・安心して生活できるように心がけている。部屋を間違える方はスタッフが遠目で見守りをしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	(有)歩未
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	松山市北久米町933-1
自己評価作成日	平成24年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 6月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔で自分らしい暮らし」を念頭に支援を行っている。 入居者・ご家族の要望をくみ取り、リハビリ体操や芸術療法、散歩などを通じて、利用者と一緒に楽しんで生活が送れるよう努めている。防災訓練や夏祭りなど、地域の行事への参加や、ホーム主催で各行事を計画し、地域の方々との交流を積極的に行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

季節ごとの行事や、利用者の希望に応じた外出支援、職員と利用者がペアになっての仮装パーティ、芸術療法や園芸活動など、多種多様な催し物を工夫して、利用者の日常生活の活性化に努めている。料理は専門の職員が配置されており、職員は利用者が日々楽しみながら生活できることに重点を置いて、サービスの質の向上に努めている。夏祭りは事業所の催し物であるが、地域の行事としての位置付けもあり、多くの近隣住民の参加がある。事業者は、地域とのつながりを大切にしたい取り組みを継続し、利用者へのサービス提供にも活かしている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あゆみ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)  
氏名 高須賀 幸子

評価完了日 平成24年5月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) リビングのいつも見えるところに理念をはりだしてあり、自然に目に入り、支援のとき、こころがけることができる。	
			(外部評価) 開設してから7年が経過し、利用者と職員で見直しを検討している。「理念がなぜ必要なのか」という原点に立ち戻り、理念を言葉だけでなく、日常のケアの基盤として位置づける取組みをしている。	理念の見直しにあたり、職員それぞれが「何のために必要なのか、どのような場面を想定した言葉なのか」など、より具体的な意味づけになることに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ご利用者との散歩中、あいさつを交わしたり、声をかけていただいたり、行事参加もしていただけている。いきいきサロンの方とはなじみの関係ができつつある。	
			(外部評価) 住宅地に隣接していないが、事業所が積極的に関わりを持って自治会や学校等との交流を深めている。事業所の行事が地域の行事として定着し始めており、近隣住民とも普段着のつきあいができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 愛媛医療生協久米北支部長の依頼により、「からちゃんのおあわせ」という紙芝居の絵を職員が担当し出来上がった。現在、その紙芝居がこの地域の認知症サポーター養成講座などで使用されている。また城南高校の実習や中学校の体験学習も受け入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 職員より自分たちと利用者の皆さんとの関わりや接し方、コミュニケーションの状況を行事を通じてみていただきたいとの意見があり、ハロウィンの審査員をしていただいたり、クリスマス会を盛り上げていただいたりしてホームとはこんなこともするんだとのご理解をしていただいた。	
			(外部評価) 運営推進会議を机上の話し合いだけで終わらせないよう進め方に工夫を凝らしている。事業所の行事やその準備に合わせて開催し、委員に利用者へのサービス提供の状況を見てもらい率直な意見をもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課・生活福祉課の担当者と連絡を取り合い、様式変更などの相談などもしている。行事にも参加いただき協力いただいている。	
			(外部評価) 報告会や研修会などを通して市や地域包括支援センター等との繋がりを深めている。職員は、利用者と市社会福祉協議会が主催するふれあい・いきいきサロンにも参加し、保健所の職員とも協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ホーム内勉強会で理解に努めている。利用者一人ひとりの身体状況に合わせた介護方法の検討を行い、主治医の指示も仰いでいる。日中の玄関の施錠はしていない。	
			(外部評価) ベッドのサイドレールも、身体拘束にならないよう配慮しケアを行っている。転落の危険性がある場合は、マットを敷いたり、布団に切り替えたりしながら、身体拘束をしない事を最優先させている。職員は正しく理解し、利用者の人権を守るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 会議や勉強会で意見交換や情報交換し、よりよいケアを提供できるよう努めている。また職員の言葉使いなども注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会等で理解に努めているが難しい内容である。今のところ利用者やその関係者からの相談はないが、その機会があれば利用者が困る事のないよう対応したい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族・ご本人（理解が出来る方）と面談で説明を行い、理解できるよう質問にも丁寧に答え、理解していただくようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や行事、家族会の時等にご意見・ご要望など伺っている。また、年2回満足度のアンケート調査も実施し、結果報告もご家族に行っている。また、運営推進会議や職員会議でも報告している。	
			(外部評価) 利用者の生活を豊かにするためには家族の協力が不可欠であるとの考えから、家族との関わりに重点を置き意見を反映させている。家族の面会も多く、機会をみて家族の意見を傾聴している。アンケートを行ったり、日常的な関わりの中で家族との繋がりを深め、意見を言いやすい環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 年2回、職員に対し改善シートを配布し意見を出しやすい環境をつくり、運営に関する意見や要望のくみ上げをし、改善すべきところは改善している。</p> <p>(外部評価) 職員は自分の言葉でしっかりとした考えを述べ、代表者や管理者はその意見を取り入れた運営を心がけている。職員一人ひとりが自分で考えることを大切に、ケアの質の向上に繋げている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 各自「今年の目標」をたて、目標達成のために努力している。また、業務個人評価も年2回行い自分自身の評価もし、代表者はその評価をもとに、給与の改善に向け、努力している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 毎月勉強会を行いレベルアップに努めている。また、外部研修は、全員に研修案内を回覧し希望者は参加できるよう勤務調整や、費用負担もしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他のグループホームと合同で外部講師による勉強会を実施し、交流を兼ねた勉強会をしたり、互いの行事（夏祭り等）の案内を行い職員・利用者ともに交流を図っている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人の不安を解消できるよう、より添い傾聴する姿勢で安心できるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込みの時に見学・相談を受けており、利用開始時にも再度不安・要望など伺い、ご家族が安心できるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) できること、できないこと、わかること、わからないことなど、ご家族からの情報以外にも職員が目視観察し必要な支援につなげるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と1対1で過ごす時間を持ったりして、孤立しないように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはご家族だけで過ごせるように配慮している。また普段の様子などご家族に報告・相談などし、互いにご本人の様子を共有できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族以外にも友人・知人が面会に来られたり、手紙や贈り物など届いたりしており、その都度、ご家族への連絡も行っている。また今迄行っていた美容室へ継続していかれている方もいる。  (外部評価) 事業所は、利用者の友人や知人との関係を大切に、途切れないよう配慮している。新しい関係づくりの支援として、ふれあい・いきいきサロンを活用するなど事業所の近辺に馴染みの人や場を作る取組みも行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 認知症の方同士の関わりの方、職員が間に入り、互いの会話・気持ちなどを傾聴し伝え合うなどの支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了後来られた方はいないが相談を受ければ、いつでも相談できる体制は整っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居されてからも情報収集に努め、ご本人の希望・意向が表出しやすい環境作りを心掛けている。認知症の進行に合わせた対応の検討をしている。  (外部評価) 職員は、利用者の意向の把握に力を入れフェイスシートに思いや生活歴を細かく記録し、家族のように何でも話せる関係性を築くことに努めている。利用者の思いや意向を十分理解し、日々のケアにあたっている。	利用者一人ひとりの意向を把握するために、職員全員が口頭ではなく、文章により確認しあつて情報をまとめることで、新たな希望の発見などに繋げ、いっそうのケアの質の向上に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族からの情報を基にしているが、十分ではないため、日常の会話から情報収集し、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送りにより、それぞれの利用者の過ごし方や身体状況の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族からの要望など反映させながら、担当者会議で話し合い意見交換を行い計画を立てている。計画作成前には毎月のモニタリングを参考に計画の見直しを行っている。	
			(外部評価) モニタリングを分かりやすくするために、データ化する取り組みを行っている。日々の取り組みが確認できるような表を作成し、職員だけでなく利用者のモチベーションアップにも繋がっている。家族等にも事業所の日々のケアを紹介できる取り組みとなっている。	データ化されているため介護目標の達成度が把握しやすいので、様々な視点から分析を行って、ケアの質を高める取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に毎日ケアプランの評価を行い、記録は生活記録に残している。申し送りノートも活用している。記録を基に、問題点の見直し、介護計画への反映に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 連携医以外の通院等、ご家族ができないときには、ホームで対応している。またご家族との外出時には待ち合わせ場所まで送ることもある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) いきいきサロンへの参加が可能な方は内容に合わせて参加している。地域の方と顔なじみの関係ができてきている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホームとの連携医・ご本人・ご家族の希望を踏まえ たうえで、症状に応じて医療機関を選択し受診で きるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所の協力医が在宅医療に力を入れており、その 信頼性から利用者全員が納得してかかりつけ医と している。看護師の代表者がかかりつけ医との窓 口になり緊密な連携がとられている。利用者や家 族の希望も汲み取って、専門医の受診も支援し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームの看護師には適宜利用者の変化があれば 伝えて、指示を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、経過表を作成し情報を伝えている。 病院訪問時には、状況説明を受けたり、退院が 決まれば、医師、ご家族との会議を持ったり している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化したときには、主治医から利用者家 族に状況説明や今後の対応等についての話し 合いの機会を持つようにしている。その後の 状況に応じて都度話し合いながら事業所の 対応を説明し、チームケアに取り組んで いる。	
			(外部評価) かかりつけ医の協力のもと、ターミナルケ アに取り組んでいる。段階ごとに話し合う 機会を持ち、職員は利用者や家族の思い を十分理解し支援を行っている。職員は 経験を重ねながら、真摯にターミナルケ アと向かい合う姿勢を大切にしている。	重度化や終末期の支援を行うにあたり、リ フトの導入や活用方法の研修を行うなど、 職員のスキルアップにつながる取り組 みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDも設置しており、消防訓練時にはAEDの使用方法の訓練も実施している。日々の業務上必要な処置などは看護師に指示・指導を仰いでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の防災避難訓練には職員・利用者参加し、実施している。また地域の防災訓練にも参加し地域の方々とともに防災知識を高めている。  (外部評価) 災害対策は、消防署の協力を得て他の施設との合同訓練やセキュリティ会社の訓練、地域の防災訓練など様々な形で行なっている。利用者の居室にヘルメットを備え付けたり、転倒予防の設備をするなど、安全に配慮している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の個性に合わせ対応し、声掛けの仕方も工夫しながら行っている。  (外部評価) 職員は、利用者それぞれの人格を尊重しプライバシーに配慮した声かけを行い、自然で人間味あふれた関係を築いて利用者の安心感を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 各担当者がアセスメントなどで個別に聞き取りをしたりして本人の想いを傾聴している。また自己決定ができにくい方には選択肢をだしたりして自分で決定する機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 今までの生活歴や身体状況に合わせて、ご本人のしたいこと、継続できることはしていただけるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己決定できる方には自分で衣類の選択をしていただき、そのために必要な支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きなどそれぞれできる方が積極的に行えるよう支援している。	
			(外部評価) 調理専任の担当者がおり、栄養に配慮した美味しい食事が提供されている。食事を栄養面だけでなく楽しみにするという支援を行っており、利用者も食事の時間を楽しみにしている。食事前の嚥下体操も和やかにやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) チェック表に記入し1日の水分量・食事量などが把握できるようにしており、水分不足や栄養バランスには注意している。身体状況に応じミキサー食や刻み食の対応をしたり、個別に必要な介助をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨き実施している。義歯の方は毎日洗剤につけ消毒している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェック表に排泄時間の記録をしており、定期的に声掛けを行い誘導している。居室にはポータブルトイレは置かない方針で、できるかぎりトイレで排泄できるように努めている。	
			(外部評価) 「排泄はトイレで」という介護目標に沿ったケアを実践している。事業所内に、車いす用のトイレを4か所も設えており、排泄支援に力を入れていることが分かる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄の記録をつけており、便秘の状況に応じては薬の使用もある。運動できる方は、散歩したり体操したりして効果がある方もいる。食事でも毎食繊維質の食材を使った食事を提供している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一応入浴日は決めているが、それぞれの状態に合わせて、適宜入浴できる体制は整えている。機械浴と個人浴の対応をしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望に応じた入浴や、特浴を取り入れた個々の状態に応じた入浴を支援している。希望に合わせて同性介護にも応じるなど、細やかな心配りがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼食後、昼寝をされる方や、リビングで過ごされる方などご本人に合わせて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬についての説明書はファイルに綴じており、職員はそれにより確認し症状の変化等あれば、看護師に確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常会話の中から、したいことなど聞き取り、レクリエーションやケアプランに取り入れ、実施し、それぞれが役割や楽しみを持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や庭に出るなど、希望があれば、対応している。個別援助も行っており、外出希望により対応している。また地域のいきいきサロンも内容により参加したい希望があれば参加している。	
			(外部評価) 日常的な外出だけでなく、利用者ごとの希望に応じた個別外出支援を行い、外出が利用者の生活の質を向上させている。職員は、利用者にとっての外出の意義をよく理解している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 立て替え払いとしているため、普段お金を使うことはないが、外出時には自分で買い物する方もおられ、職員が見守り使用している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があれば対応しており、ご家族とお話されている。手紙は送られてくるので、字の読みにくい方には読み聞かせしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者がまぶしくないよう、細めにカーテンの上げ下げを行い、気をつけている。エアコン・加湿器など使用し温度・湿度の調節を行っている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は、掃除が行き届き維持管理がしっかりしており、清潔感がある。適所に観葉植物や芸術療法の作品の展示があり、利用者を活気づかせるインテリアとなっている。居間や食堂だけでなく、廊下やホールもゆったりとしたスペースがあり、利用者の心和む居場所になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングでは席替えを行い、利用者同士の関係が良いものになるよう気をつけている。居室にいることの多い方については、訪室しコミュニケーションをとるように心がけている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の写真を飾ったり、趣味のCDなどもってきていたりして落ち着ける環境作りをしている。</p> <p>(外部評価) ベッドとダンスは備付けで、利用者は自分の生活スタイルに合わせた家具や小物を持ち込んでいる。ベッドやダンスなどのレイアウトは利用者ごとに異なっており、個性を尊重した居室づくりを支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下・トイレ・浴室などへの手すりの設置や居室入口へ写真入りの名札の設置により、安全・安心して生活できるように心がけている。</p>	